

# おいしいワインは 良質なぶどうづくりから



牧野 直樹  
(新国会)

◆農業公社及び振興公社の現状と今後の方向性について

**問** ぶどう産地を掲げる本市として農業公社が大豆ばかりでなく率先してぶどう栽培を行い、担い手育成やワイン産地の振興を図っていくべきではないか。

**答** メルローは、本市の気候と風土に非常に適している代表的な品種であり、国内外において本地域のメルローは高い評価を受けている。昨年2月にJA塩尻市が設立した「㈱JA塩尻ファーム」では主に遊休農地を活用した果樹振興を、また、JA洗馬ではこの3月から「㈱ドリームファーム」を設立し、主に野菜振興を図る目的で事業を開始した。農業公社やこれらの団体と連携を図る中で、農業の活性化に向けて今後も事業の推進を図っていく。

**問** 塩尻市振興公社については、法律や制度上の制約から市が取り組みがたい事業を半

官半民というメリットを最大限に生かし積極的に取り組むべきと思うがどうか。

**答** 多様な市民ニーズと著しく変化する社会経済情勢の中で、当振興公社が持つ機動力やスピード、柔軟性などその優位性と特質性は重要な機能となっている。今後さらに独自の事業展開によって成果を挙げるためにも、その機能を高めることが改善すべき課題と捉えている。



桔梗ヶ原メルロー

## 委員会行政視察報告

### 議会運営委員会

平成28年1月20日・21日

#### 新規就農者育成事業

(千葉県我孫子市)

我孫子市はこの40年間で農業従事者数が半減した。そこで農業の担い手確保のために平成24年に農業振興基本条例を施行し、新規就農者を含めた多様な担い手の育成確保をするということとを明記し、補助金による支援をスタートした。その内容は、農地の賃貸料補助(年間10万円を限度として全額補助)、農業用施設、機械等整備費補助(50万円を限度に経費の半額補助)、就農研修補助(10万円を限度に経費の半額補助)などで、いずれも就農後5年が限度である。

その他の支援として、就農相談、農地確保の手伝い、新規就農者連絡協議会の設立などを行っており、新規就農者数は23名であるとのことだった。

#### 議会改革の取り組み

(東京都町田市)

町田市議会はただ一つの目標として「開かれた議

会」を掲げ、会議の内容について情報提供をしている。塩尻市議会で取り組んでいないものは、

「市議会を開きます」のチラシをバス170台に無料で掲示。「市議会を傍聴に行こう」のパンフレットを作成し配布。年間千人くらいが傍聴する。

議員のグループウェアの導入で紙ベース100万円削減。通知の削減、議員間情報の共有など。

議会基本条例は制定していないが、先進的な取り組みを行っている。



町田市の視察